

教 科	理 科		科 目	地学基礎	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		地学基礎（数研出版）				
副教材（出版社）		リト [®] Light ノート地学基礎（数研出版）、リト [®] α 地学基礎（数研出版）				
授業の概要		地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたこと、宇宙と惑星としての地球の特徴、地球環境と人間生活とのかかわりについて学習する。				
授業の目標		日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震と地殻変動 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境		・地球の形・大きさの測定の仕方や構造などについて、スケールも含めて理解する。 ・プレートの運動について学び、火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることを理解する。 ・地震の性質と地殻変動について理解を深める。 ・火山活動と、その結果として形成される岩石について学ぶ。 ・太陽エネルギーと重力がどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。 ・地球と生命の関係の理解を深める。		
	2 学 期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 探求活動		・大気圏の構造と、地球の熱収支について理解する。 ・海洋も大気の運動と同じように熱収支のバランスにとりて重要であることを理解する。 ・時間スケールの大きな現象を考える場合は、全地球的にとらえることが必要であることを理解する。 ・日本の自然環境の特徴と、そこで起こる災害を理解する。 ・太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。		
	3 学 期	第2章 宇宙の誕生		・太陽系の天体に関して、系統的に学習し、理解を深める。 ・ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学習内容について理解を深めることができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。		簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理ができる。		身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	理 科		科 目	化学基礎	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）		新編 化学基礎（東京書籍）				
副教材（出版社）		ニューサポート新編化学基礎（東京書籍）				
授業の概要		化学が物質を対象とする科学であることを理解し、実験・観察を行うことで、化学が人間生活に果たしている役割について学習する。				
授業の目標		日常生活や社会との関連を図りながら科学への関心を高め、目的意識をもって実験・観察を行い、身のまわりにある化学に興味・関心をもたせるとともに、元素記号や周期表、化学の基本的な法則や概念を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素 2 編 物質の構成 1 章 元素の構成と元素の周期表		・物質と人間生活の関連、歴史について理解する。 ・生活のいろいろな場面で化学の知識が必要であることを理解する。 ・物質の構成粒子としての原子の構造について理解する。 ・試薬を安全に扱う方法や、基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。 ・周期律と周期表の構成について、族や周期の意味を理解する。		
	2 学 期	2 章 化学結合 3 編 物質の変化 1 章 物質量と化学変化 2 章 酸と塩基		・イオン結合や金属結合、共有結合などの化学結合の仕組みについて理解する。 ・有効数字について理解する。 ・物質量の考え方と化学反応式の書き方について理解する。 ・化学反応式の示す量的な関係について理解する。 ・酸と塩基の定義や性質を理解する。 ・中和滴定の実験を通して、指示薬や実験器具の名称と使用法を習得する。		
	3 学 期	3 章 酸化と還元反応 終章 化学が拓く世界		・金属のイオン化傾向について理解し、いろいろな金属の反応性について考察する。 ・電池のしくみについて理解し、身のまわりの酸化還元反応について化学的に考察する。 ・化学と社会や生活の関連を理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・学習内容について理解を深めることができる。 ・基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。		・授業内容について科学的な捉え方ができている。 ・授業内容と社会や生活との関連を考えることができる。		・自然の現象について興味と関心をもち、積極的な態度で授業、実験に取り組むことができる。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	保健体育		科 目	体 育	単位数	3
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）				
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館書店）				
授業の概要		心と体のバランスを整えながら、自分の体力や体調に合わせた授業への参加を実践できるようにする。自分や仲間の健康・安全を確保した活動の中で、それぞれの課題を見つけてその解決に取り組み、技能の習得段階に応じた内容の練習や試合を考えながら進めていく。また、公正や協力、責任などの態度の育成を目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。				
授業の目標		1 各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいながら、さまざまな技能が身に付けられるようにする。 2 運動における競争や協働の意味を正しく理解し、自己や仲間の課題を解決していくために必要な態度や能力を養う。 3 健康や安全を確保し、継続して運動に親しむことができるようにする。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 各種体操、集団行動、補強運動及び長距離走など 2 選択Ⅰ バドミントン、テニス、卓球及び柔道から1つ選択 3 体育理論Ⅰ		・自分の体力や体調に合わせた運動を継続して行う。 ・基本的な集団行動を学び、日常生活の中に役立てていく。 ・仲間と協力したウォーミングアップを通して、体や心の状態に気づく。 ・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・技の名称や使い方を覚え、基本的な技を使った攻防をできるようにする。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・豊かなスポーツライフの設計について学ぶ。		
	2 学 期	4 選択Ⅱ ソフトボール、バレーボール及びハンドボールから1つ選択 5 選択Ⅲ サッカー及びバスケットボールから1つ選択 6 体育理論Ⅱ		・基本的な用具の操作やボール操作を身に付ける。 ・自分たちのレベルに合わせたルールを考えながら、仲間と協力して簡易ゲームで勝敗を競う。 ・作戦や状況に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開する。 ・健康・安全を確保して活動する。 ・豊かなスポーツライフの設計について学ぶ。		
	3 学 期	7 選択Ⅲの続き		・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようにする。 ・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かす。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。		自分や仲間の体力や学習段階に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 自分やチームで考えたことを他者に伝えることができる。		体づくり運動の行い方や、さまざまな運動の技能、ゲームの進め方が身に付いている。 自分や仲間の健康・安全を守るための知識を理解し、実践している。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	外 国 語		科 目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	3
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科B類型		
教科書（出版社）		BIG DIPPER English CommunicationⅢ（数研出版）				
副教材（出版社）		UNITE 英語総合問題集 Stage 2（数研出版） UNITE 英語総合問題集 Stage 3（数研出版）				
授業の概要		1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年 間 						

教 科	外 国 語		科 目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	5
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		BIG DIPPER English CommunicationⅢ（数研出版）				
副教材（出版社）		UNITE 英語総合問題集 Stage 3（数研出版） 英単語ターゲット 1900（旺文社）				
授業の概要		1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。				
授業の目標		1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。				
年 間 						

教 科		家 庭		科 目	家庭総合	単位数	2
学 年		3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）		家庭総合 ～自立・共生・創造～ （東京書籍）					
副教材（出版社）		2024 年度 家庭科ノート、調理実習ノート基礎編（愛媛県高等学校家庭科教育研究会編）					
授 業 の 概 要		「住生活の科学と文化」「食生活の科学と文化」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の3項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に関連を図りながら学習する。					
授 業 の 目 標		1 住生活・食生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を身に付ける。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第8章 住生活をつくる 第6章 食生活をつくる ◎ 調理実習 ○ ホームプロジェクトについて			・住居の機能を考え、平面図の基礎知識を得て、間取りを理解し、ライフステージにあった住居を考える。 ・住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学び、バリアフリーの考え方を理解し、身に付ける。 ・気候風土に応じた様々な住居、地域社会との繋がりを理解し、持続可能な住生活とは何かを考える。 ・食品の選択保存や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・日常の食生活を振り返り、食生活の変化や問題点を知る。 ・食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2 学 期	○ ホームプロジェクトの発表 第6章 食生活をつくる ◎ 調理実習			・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようにする。		
	3 学 期	第6章 食生活をつくる			・環境や食糧自給率の問題を考える。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に取り組む態度		
	生活を主体的に営むために必要な住生活、食生活、環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。		様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		
備 考	3つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	課題研究	単位数	3
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材（出版社）						
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得をする。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 編 財務会計の基礎 第 2 編 貸借対照表		・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
		第 3 編 損益計算書		・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第 4 編 その他の会計処理		・役務収益・役務原価、外貨建て取引、税効果会計など会計に関する新しい知識を習得する。		
		第 5 編 財務諸表の作成 発展学習		・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。		
3 学 期	発展学習		・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。			
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付け、それらの知識を活用し、適正な会計帳簿を作成することができる。		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	課題研究	単位数	3
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）				
副教材（出版社）						
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得をする。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 編 財務会計の基礎 第 2 編 貸借対照表		・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
		第 3 編 損益計算書		・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第 4 編 その他の会計処理		・役務収益・役務原価、外貨建て取引、税効果会計など会計に関する新しい知識を習得する。		
		第 5 編 財務諸表の作成 発展学習		・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。		
3 学 期	発展学習		・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 ・企業の経営者や社会人としての倫理観等を身に付ける。 ・課題研究報告書を作成し、発表する。			
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付け、それらの知識を活用し、適正な会計帳簿を作成することができる		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	課題研究	単位数	2
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科		
教科書（出版社）		課題研究の手引き（松山商業高校）				
副教材（出版社）		I Tワールド（インフォテックサーブ）				
授業の概要		企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウェアを活用することが必要不可欠となっていることから、活用するために必要な能力・態度を身に付ける。				
授業の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 ハードウェア 1 節 コンピュータの基本構成 2 節 コンピュータのデータ表現 第2章 情報処理システム 1 節 情報処理システム対話処理システム 第3章 ソフトウェア 1 節 ソフトウェアの分類		・ コンピュータの種類について把握させる。 ・ 2進数表記の必要性を理解させるとともに、10進数等との変換の仕方を理解する。 ・ 情報処理システムは、利用方法や機器構成によってさまざまな形態に分けられることを理解する。 ・ 故障することを前提としてシステムの重要度を考慮し、システム構成を考える必要性を理解する。 ・ コンピュータを効率的に利用できるように、人間とコンピュータの間を取り持つものであることを理解する。		
	2 学 期	3 節 プログラム言語と言語プロセッサ 第4章 データベース 1 節 データベースの概要 2 節 S Q L 3 節 いろいろなデータベース 第5章 ネットワーク		・ プログラム言語は、コンピュータに仕事を支持するプログラムを作成するための言語であることを理解する。 ・ データベースは、データを集中して一括管理する方式のことであることを理解する。 ・ DBMSとは、データベースを効果的に活用するためにデータベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。 ・ S Q Lを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。		
	3 学 期	総合練習		・ 情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即死して理解するとともに、データベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	企業活動におけるコンピュータの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。		企業活動におけるプログラミング活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な子根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を課改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動にお ICT を最大に利用し、に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	総合実践	単位数	2
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科B類型		
教科書（出版社）		総合実践 ―企業取引を学ぶ― 三訂版（実教出版）				
副教材（出版社）						
授業の概要		1 これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを実践的に学習する。 2 ビジネス活動に必要な知識・技術について、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。				
授業の目標		1 ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。 2 ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 基礎編 第1章 総合実践の学習 第2章 ビジネスマナー 第3章 ビジネス文書の作成 第2編 実践編 第1章 模擬取引の学習 第2章 模擬取引 1 卸売商の業務		・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・社会人に必要となる基本的なマナーや応対時のマナー、電話応対について理解し、技術を身に付ける。 ・ビジネス文書の役割と重要性を理解し、基本的な作成技術を身に付ける。 ・卸売商の開始業務、経営計画、仕入業務、販売業務、月末・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。		
	2 学 期	2 倉庫会社の業務 3 保険会社の業務 4 運送会社の業務 5 銀行の業務 6 管理部の業務		・各会社（倉庫・保険・運送・銀行・管理部等）の開始業務、日常業務、月末業務について理解し、実践的な演習をとおして技術を身に付ける。 ・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。		
	3 学 期	7 情報処理の業務		・総合実践におけるコンピュータの利用について、知識と技術を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	記帳に必要な仕訳を理解し、諸帳簿・諸表の作成ができる。 帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解している。 取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入ができる。		会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に注意を払いながら行動することができる。 取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解している。		ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができる。 ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	財務会計Ⅰ	単位数	2
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科B類型		
教科書（出版社）		新財務会計Ⅰ（実教出版）				
副教材（出版社）		完全段階式標準簿記問題集 会計（東京法令出版）				
授業の概要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得をする。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 財務会計の基礎 第2編 貸借対照表		・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
		第3編 損益計算書		・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第4編 その他の会計処理		・役務収益・役務原価、外貨建て取引、税効果会計など会計に関する新しい知識を習得する。		
		第5編 財務諸表の作成 発展学習		・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。		
3 学 期	発展学習		・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。			
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付け、それらの知識を活用し、適正な会計帳簿を作成することができる。		会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		商 業		科 目	財務会計Ⅰ	単位数	3
学 年		3 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		財務会計Ⅰ 新訂版（東京法令出版）					
副教材（出版社）		完全段階式標準検定簿記問題集会計（東京法令出版）					
授 業 の 概 要		財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。					
授 業 の 目 標		1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第Ⅰ編 財務会計の基礎 第1章 企業会計の意義と役割 第2章 会計法規と会計基準 第3章 株式会社の設立・開業と株式の発行 第4章 当期純利益の計上と剰余金の配当・処分 第5章 社債 第6章 株式会社の税務 第Ⅱ編 貸借対照表 第1章 貸借対照表の概要 第2章 資産の意味・分類と評価			・利害関係者への適正な会計情報の提供及び、提供された会計情報の活用を行えるようにする。 ・企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準について学び、財務会計の概要について理解する。 ・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成をとおして、企業の財務状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期	第3章 流動資産 第4章 固定資産 第5章 負債の意味・分類 第6章 純資産の意味・分類 第7章 貸借対照表の作成 第Ⅲ編 損益計算書 第1章 損益計算の意味と損益の区分 第2章 収益・費用の認識と測定 第3章 損益計算書の作成			・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	3 学 期	第4章 その他の財務諸表 第Ⅳ編 財務諸表活用の基礎 第1章 財務諸表の意義 第2章 財務諸表の見方 第Ⅴ編 連結財務諸表 第1章 連結財務諸表			・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付けるとともに、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解している。			会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。		財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	ネットワーク活用	単位数	3
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科B類型		
教科書（出版社）		ネットワーク活用（実教出版）				
副教材（出版社）						
授業の概要		ビジネスに携わる者としての視点や資質を養えるように、電子商取引に関連した内容だけに特化せず、社会的な動向や技術の発展、新しいビジネスのかたちについて学ぶ。				
授業の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 章 情報通信技術の進歩とビジネス 2 章 情報コンテンツの制作		・インターネットを活用したビジネスを展開する際に留意すべき個人情報や知的財産の保護の概要を学び、その重要性を理解する。 ・インターネットを活用したビジネスに関する法規やガイドラインの概要を学び、その必要性を理解する。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集する。		
	2 学 期	3 章 企業情報の発信と Web デザイン 4 章 インターネットと情報セキュリティ 5 章 電子商取引とビジネス		・Web ページの制作とデザインについて理解するとともに、一般的な Web ページ制作手順を理解する。 ・CMS を利用する意義や利点を理解するとともに適切に用いて、Web サイト構築をする。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解する。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解する。		
	3 学 期			・電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解するとともに、Web ページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築する。 ・新たなビジネスの創造について進化する AI の活用方法について理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	商 業		科 目	ネットワーク活用	単位数	2
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科A類型		
教科書（出版社）		ネットワーク活用（実教出版）				
副教材（出版社）						
授業の概要		ビジネスに携わる者としての視点や資質を養えるように、電子商取引に関連した内容だけに特化せず、社会的な動向や技術の発展，新しいビジネスのかたちについて学ぶ。				
授業の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 章 情報通信技術の進歩とビジネス 2 章 情報コンテンツの制作		・インターネットを活用したビジネスを展開する際に留意すべき個人情報や知的財産の保護の概要を学び、その重要性を理解する。 ・インターネットを活用したビジネスに関する法規やガイドラインの概要を学び、その必要性を理解する。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集する。		
	2 学 期	3 章 企業情報の発信と Web デザイン 4 章 インターネットと情報セキュリティ 5 章 電子商取引とビジネス		・Web ページの制作とデザインについて理解するとともに、一般的な Web ページ制作手順を理解する。 ・CMS を利用する意義や利点を理解するとともに適切に用いて、Web サイト構築をする。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解する。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解する。		
	3 学 期			・電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解するとともに、Web ページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築する。 ・新たなビジネスの創造について進化する AI の活用方法について理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		商 業		科 目	ネットワーク管理	単位数	2
学 年		3 年		類 型	情報ビジネス科		
教科書（出版社）		ネットワーク管理（実教出版）					
副教材（出版社）							
授業の概要		情報通信ネットワークを活用して、ビジネス活動を効果的に行う上で、情報共有が担う役割の重要性や、情報通信ネットワークの形態や特徴、ネットワークを構成する機器等についても理解させることで、情報セキュリティを管理する上で必要となる基本的な知識をもとに、起こりうるリスクやその予防と問題発生時を想定した適切な対策について、設計・構築・運用を身に付けさせる。					
授業の目標		1 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。 2 情報資産を共有し保護する環境の提供に必要な資質・能力を育成することを目指す。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 企業活動と情報通信ネットワーク 第1節 情報資産共有の重要性 第2節 情報通信ネットワークの形態と通信 第2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 第1節 情報通信ネットワークの設計方法 第2節 情報通信ネットワークのしくみと通信方法 第3節 ネットワーク機器 第4節 情報通信ネットワークの構築方法			・情報通信ネットワークを活用してビジネスに関する情報やハードウェアなどの情報資産を共有することの重要性を理解する。 ・情報共有の重要性について、情報通信ネットワークを構築し、情報資産を共有して企業活動を展開している具体的な事例と関連付けて理解する。 ・情報通信ネットワークに対する要求を分析し、ネットワークの構成、運用計画の策定など情報通信ネットワークを設計する基本的な方法や構築するため必要なハードウェア、情報資源を共有するためのソフトウェアなどの導入や設定方法について理解する。		
	2 学 期	第5節 情報通信ネットワークの運用と障害対策 第6節 システム監査 第3章 情報セキュリティ 第1節 情報セキュリティ管理の目的と重要性 第2節 人的対策 第3節 技術的対策			・管理ツールやセキュリティポリシーによるネットワーク管理やユーザ管理などの運用管理の技法を習得する。 ・システム監査の実施手順や監査技法について理解する。 ・情報資産に対する脅威やリスクをしっかりと理解し、情報セキュリティ管理の目的と重要性について理解する。 ・情報セキュリティ啓発活動の重要性、内部不正や人的ミスによる情報の漏洩を防止する対策、マルウェア等への感染を予防する方法や技術的対策について、具体的な事例と関連付けて分析し、理解する。		
	3 学 期	第4節 物理的対策			・地震、火災、落雷、停電など災害や事故の予防と初発時と想定した対策、機器の故障など物理的障害の予防と情報セキュリティ上の問題の発生を想定した対策について理解する。		
観 点 別 評 価	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	情報資産を共有し、保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			情報資産を共有し、保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し、保護する環境の提供に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	国 語		科 目	論理国語	単位数	3
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		新編 論理国語（東京書籍）				
副教材（出版社）		新編 論理国語学習課題ノート・小説三選付属版（東京書籍）				
授業の概要		1 講義やグループ活動を通して、論理的な文章や実用的な文章の読み方を学ぶ。 2 論点を整理して読み、自分の考えを深めて論述したり討論したりする。				
授業の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力、創造的に考える力を伸ばす。				
年 間 学 習 計 画		学 習 内 容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 時代をひらく ・最初のペンギン ・豊かさと生物多様性 ・考える楽しみ② 2 新しい視点から ・カフェの開店準備 ・言葉の扉③ 3 科学と人間 ・ロボットが隣人になるとき ・言葉の扉④		・タイトルに象徴させる筆者の考えを手がかりにして自分の生き方について考える。 ・論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ・現代における真の価値の探究について理解する。 ・日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ・紛らわしい漢字について理解する。 ・哲学的な思考に沿って書かれた評論を読み、人間の意志や自由について理解を深める。 ・的確な表現の仕方について理解する。		
	2 学 期	4 豊かな認識 ・科学的「発見」とは ・図表の読み取り方 5 知のゆくえ ・もう一つの知性 6 明日をみつめて ・ホンモノのおカネの作り方 ・やさしい日本語		・本文中の二つの課題を迫体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ・図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 ・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・資料を読んで「やさしい日本語」について理解し、実用的な文章の分かりやすさについて考える。		
	3 学 期	・未来のありか ・考える楽しみ③		・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ・困難な時代における読書の役割について考える。		
	観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしているか。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしているか。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っているか。		
備 考	各学期の定期考査までの学習のまとめりに、3つの観点を ABC の3段階で評価し、100点法を用いて評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教 科	地理歴史		科 目	歴史総合	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科、情報ビジネス科(A・B 類型) 地域ビジネス科		
教科書(出版社)		明解歴史総合 (帝国書院)				
副教材(出版社)		明解歴史総合ノート (帝国書院)				
授業の概要		近現代を中心に、特に世界史の動向と日本との関わりを重視した歴史学習を行う。多くの事象を理解するだけでなく、先人が残した資料を読み解きながら、現在の社会や文化に歴史的営みがいかに影響を及ぼしているか考察する。				
授業の目標		日本と世界の近現代史の基本的な事象を学び、多様な文化や価値観、様々な社会のあり方を理解するとともに、グローバル化する社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
年 間 学 習 計 画		学習内容 (単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	1部 歴史の扉 2部 近代化と私たち 1 近代化への問い 2 結び付く世界と日本の開国 3 国民国家と明治維新 4 近代化と現代の諸課題		・歴史における資料の重要性と適切な読み解き方について理解する。 ・18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多角的・多面的に考察し、表現する。 ・欧米の市民革命や日本の明治維新や大日本帝国制定など国民国家が形成される過程を理解する。 ・列強の帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響を多角的・多面的に考察し、表現する。		
	2 学 期	3 部 国際秩序の変化や大衆と私たち 1 国際秩序の変化や大衆化への問い 2 第一次世界大戦と大衆社会 3 経済危機と第二次世界大戦 4 国際秩序の変化や大衆化と現代の諸課題		・国際秩序の変化や大衆社会に関する資料を分析し、資料を読み取った情報をまとめたりするなど表現する。 ・第一次世界大戦やソヴィエト連邦の成立など国際社会の変容を理解し、大衆の政治参加や大量消費社会成立の歴史的意義を、資料を通して考察する。 ・世界恐慌やファシズムの台頭が第二次世界大戦の展開にどのような影響を及ぼしたのか理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会の変化と日本の関わりを資料を通して考察し、表現する。		
	3 学 期	4 部 グローバル化と私たち 1 グローバル化への問い 2 冷戦と世界経済 3 世界秩序の変容と日本 4 現代的な諸課題の形成と展望		・グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 ・冷戦後の国際社会の変容と諸問題について、資料をもとに考察し、今後の世界秩序のあり方を展望する。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から理解する。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		歴史の変化に関わる事象の意味、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題の解決に向けて構想したりすることができる。		知識及び技能、思考力、表現力を粘り強く身に付けようとしている。 歴史に関わる諸事象について、平和で民主的な社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとしている。	
備 考	学期ごとに 3 つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・C の 3 段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	公 民		科 目	政治・経済	単位数	2
学 年	3 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		高等学校 政治・経済（第一学習社）				
副教材（出版社）		最新 政治・経済資料集 2025（第一学習社）				
授業の概要		教科書に沿って、本文の内容を理解し、議論する。概論だけでなく、諸課題へのアプローチを扱いながら現代社会の諸課題を深く学ぶ。				
授業の目標		社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通じて、広い視野に立ち、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治と経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方		・政治や政治権力の意味とその役割について理解する。 ・よりよい民主政治のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・「日本国憲法と現代政治のあり方」や「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、多面的・多角的に考察、構想し、表現するとともに、よりよい社会の実現を視野に、現代政治の諸課題を主体的に解決しようとする姿勢を身に付ける。		
	2 学 期	第3節 市場経済の機能と限界 第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 第6節 経済活動と福祉の向上 第2章 現代日本の諸課題の探究 選択1 産業構造の変化と起業 選択2 防災と安全・安心な社会の実現		・経済の役割と、市場経済における人々の選択について、理解する。 ・金融のはたらきと金融機関の役割について、理解する。 ・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会のあり方についての自分の考えを説明、論述する。		
	3 学 期	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第2章 国際社会の諸課題の探究		・諸課題の探究にあたって、国際社会の動向に着目したり、諸外国における取り組みや、国際連合における持続可能な開発のための取り組みなどを参考にしたりして、諸課題を主体的に解決し、合意形成や社会参画に向かおうとする姿勢を身に付ける。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べることができる。		国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や実現可能性などを指標にして議論し、公正に判断することができる。		よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科	数 学		科 目	数学探究	単位数	2
学 年	3 年		類 型	情報ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		数学探究テキスト（松山商業高等学校）				
副教材（出版社）						
授業の概要		数と式、整数の性質、2次関数、図形と計量、場合の数と確率、データの分析で、1・2年生の全復習から応用まで学習する。				
授業の目標		1・2年次に既習した内容について総復習をするとともに、基礎的な知識や技能を身に付ける。また、それらを的確に応用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 章 数と式 1 節 数と式 2 節 整数の性質		・整式についての加法、減法、乗法の計算及び展開公式 ・因数分解公式を自在に使いこなせるようになる。不等式の性質を理解すると共に、1次不等式・2次不等式の解き方を修得する。 ・最大公約数、最小公倍数の性質から互除法の使い方を復習する。さらに、不定方程式の解を見つけられるようにする。n進数の性質を復習し、応用問題にチャレンジする。		
	2 学 期	2 章 2次関数 3 章 図形の計量と図形の性質 1 節 三角比 4 章 場合の数と確率		・2次関数のグラフを式変形し、2次関数の最大・最小を理解し、具体的な問題に応用できるようになる。2次関数のグラフと2次方程式の関係を理解し、2次方程式の解を求める様々な方法についての技能を修得すると共に、2次不等式を解けるようになる。 ・座標を用いた鈍角の三角比の求め方を理解する。一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式と、正弦定理、余弦定理を理解し、活用できるようになる。 ・確率の基本定理を理解し、応用できるようになる。特に具体例を通して、条件つき確率と独立試行の定理の考え方を理解する。		
	3 学 期	5 章 データの分析 1 節 データの整理と分析 2 節 データの相関		・データを整理する必要性を理解し、度数分布表、ヒストグラム、相対度数、箱ひげ図、相関係数を知る。		
観 点 別 評 価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	1・2年生の既習事項の基本的な概念、原理・法則、用語・記号などの基礎的な知識を身に付けているか。事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けているか。		事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。基礎的な知識・技能を利用し、発展的な問題を解決するための判断・表現ができるか。		数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付けているか。	
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					